

兵庫県

私の大好きな水辺の風景

西宮市立山口中学校 三年

太田 紗

私の住んでいる山口町は、有馬川が流れ、その周囲に田んぼが広がり、初夏にはホタルが飛び交う自然豊かな地域です。また、モリアオガエルやセトウチサンショウウオなど、希少な生き物も生息しています。太陽の光を反射させて輝く水面、樹上から聞こえる鳥の声、澄んだ水の中を自由に泳ぐ小さな魚。そんな水辺の風景が私は大好きです。水は私達の暮らしに欠かせません。そして、全ての動植物にとって、命の源となっています。

しかし今、私達の生活の変化や開発、異常気象などによって水辺の環境が変わり、そこに住む生き物に大きな影響を与えています。

私は学校で、モリアオガエルの保存活動に参加しています。卵塊を飼育小屋で孵化させ、元の池に放池（放流）するだけではなく、ため池の保存活動や周辺環境の観察、調査もしています。その活動の中で私は、ため池が人間の都合で放置され、開発によって周辺環境が変わってしまった結果、水辺の生き物の住処が減っていることを知りました。身近な場所でも自然環境の変化が起こっているのです。

校庭には、みんなでゴムシートを敷き、川底の砂を入れ、周りには兵庫県産の植物が植えられたビオトープがあります。除草や、溜まった落ち葉の掃除、外来生物の駆除など、ビオトープやその周囲の環境を維持することで、私達が自然を身近に感じることもできる、大切な学びの場となっています。

また、校庭のビオトープは、学校の脇を流れる有馬川と、近くの公園の湿地を繋ぐ、緑の回廊としての役割もしています。生き物にとって、移動できる環境があることは、生息地を広げ

ていく上でとても重要です。私達が作ったビオトープは、学校内だけで完結するのではなく、地域の自然環境の一部として機能し、生物多様性を支えているのです。

ある時、モリアオガエルの保護活動をしているため池で、同じ絶滅危惧種のセトウチサンショウウオが見つかりました。産卵場所となる水溜まりをみんなで掘り、水がなくならないよう、ホースで水を供給する仕組みを作りに行った時、私はふと考えました。私の家はこのため池の近くにあり、山の斜面を整地して建っていて、水が溜まらないように溝がついています。もしかしたら私の家が建ったことで、セトウチサンショウウオの住処を奪ってしまったかも知れない。そう思うと、とても悲しい気持ちになりました。

そんな時、セトウチサンショウウオの観察会に参加しました。そこでは、開発によってセトウチサンショウウオの住処がなくなってしまうため、新しく人工のため池を作り、そこでセトウチサンショウウオを保護していました。さらに、卵嚢を産みつけやすくするために、小枝を縦に刺しておく工夫や、産卵期になると産まれたため池に戻ってくる習性があること、水のない場所では生きていけないことなどを学びました。私は、セトウチサンショウウオについてもっと知り、守りたい。そして、家の裏山の斜面に、手づくりのビオトープを作ってみたいと考え、るようにしました。私が作った小さな水辺でも、学校のビオトープのように緑の回廊となり、生き物たちの命を繋ぐ場所になればと思います。

たとえ人間の都合で生き物の住処を奪ってしまったとしても、その状況としつかり向き合い、真剣に考えて行動する事が大切だと思います。身近な自然を守ることは、自分の町を住みやすくし、心を豊かにしてくれると思います。小さな池でも、たくさん生き物がそこで生まれ、命を繋いでいきます。私達の活動が、周囲の自然環境に良い影響を与え、人と自然がより良いかたちで共生できると信じています。私の大好きな水辺の風景が、10年後も100年後も変わらずありますように。